

2022年
4～6月期

廿日市市景況調査

Economic survey

全国の景況：日本商工会議所

全産業合計の業況DIは、▲20.3(前月比+0.1ポイント)。新型コロナウイルスの沈静化と需要喚起策により飲食・宿泊関連のサービス業で業況が改善、住宅関連の民間工事が堅調に推移した建設業でも業況が改善した。活動制限の緩和から3ヵ月が経過し、日常生活への回復が見られる一方、資源・資材価格の高騰継続や資材供給の乱れ、円安による輸入物価の上昇等により、小売業では業況が横ばいに留まり、製造業や卸売業では業況が悪化に転じた。業種を問わず、コスト増が続いていることに加え、それに見合うだけの価格転嫁は依然として行われていない。中小企業の景況感は、コスト増が重荷となり、ほぼ横ばいとなった。

廿日市エリアの景況：廿日市商工会議所

※旧廿日市市(合併後の区域)の調査結果

全産業合計の業況DIは▲11.4と前回調査(1～3月)からマイナス幅が縮まる。産業別では、卸小売業が前回値(▲33.3)から今回値(▲42.9)、建設業は前回値(16.7)から今回値(0)と減少し、製造業は前回値(▲23.1)から今回値(▲8.3)、飲食・サービス業では、前回値(▲38.5)から今回値(0)、に改善した。令和4年7～9月の先行き業況は▲2.9(前回値▲15.8)と増加傾向である。

旅行・外食などが回復しつつあり、飲食・サービス料の売上は上向きではあるが依然厳しい状況が続く。昨年から資源価格や原材料価格高騰が加速、円高によるコスト増加され、価格転嫁が難しい状況も懸念される。

事業者の声

【製造業】	<ul style="list-style-type: none">・新幹線利用客・修学旅行客が増加。(和菓子製造業)・新規の太陽光発電設備が稼働し好転している。(製造業)・原材料費、動力費の上昇の影響が大きい。6月より一部値上げした。(食料品製造業)・ロシア/ウクライナの問題でかつて無い勢いで原材料の価格高騰が進んでいる。自社で吸収できるレベルを超えているため短期決戦で製品値上げを敢行しているが、もともとコロナ禍の回復基調に伴う製品値上げを行ったばかりで得意先の抵抗も大きく、状況はなかなか厳しいものがある。(樹脂製品製造業)・コロナ感染が若干沈静化、人流が増加傾向から消費活動の回復が期待される。原材料、容器等の備品関係の上昇、水光熱費の上昇と高止まり。販売価格への転嫁は今後検討課題。(食料品製造業)・原材料は軒並み高騰しているが、販売価格への転嫁は中々難しい。(印刷業)
【建設業】	<ul style="list-style-type: none">・建設資材の高騰で利益の確保が困難。(建設業)・円安、他国でのロックダウンなどが影響している。(建設業)・価格上昇だけでなく、品不足で売上に繋がらない。価格転嫁は出来ているが、購買意欲の減少は妨げられない。(建設業)
【卸小売業】	<ul style="list-style-type: none">・ガソリン価格と仕入れの高騰により利益圧迫。販売価格が決まっており一部価格転嫁ができない。(小売業)・需要が沈んだままで売上げが見込める状況にない。商品の仕入れ価格が上昇している。(コンビニ)・大手受注先に運賃の値上げをお願いしているが、難しい。(小売業)・需要の減少が長引きそう。(小売業)
【サービス業】	<ul style="list-style-type: none">・とにかくコロナが落ち着かなければならない。(保険代理店)・価格転嫁が出来ておらず、集約することでしのいでいる状況。(運送業)・小麦粉の高騰がかなり影響、今後さらに高騰する見込み。(飲食業)・価格競争により粗利率の低下が目立ち利益が確保できていない。また、材料など高騰するものの価格転嫁ができない。(サービス業)・全ての仕入れ資材が高騰し、4月より値上げした。(サービス業)・半導体不足による生産停止で、中古品の需要が増加した。(サービス業)・昨年は、コロナまん延4期(5月中旬～6月中旬)休業・時短を実施していたため前年比アップ。コロナ前比で言えば(4月～6月)85%程度になると予測。雇用助成金、休業補償などの補助金をいただいている為収支はトントン。営業利益段階では依然厳しい状況が続く。(ホテル・飲食業)

業種別景況 概要	廿日市 前年同期	廿日市 4~6 月と先行き見通し									
	全産業	全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	4~6 月	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲18.7	11.1	0.0	23.1	7.7	25.0	0.0	▲57.1	▲42.9	▲33.3	16.7
仕入価格	▲38.0	79.4	60.0	92.3	69.2	100.0	50.0	71.4	85.7	60.0	36.4
採算	▲25.2	25.7	14.3	33.3	33.3	50.0	25.0	14.3	▲28.6	16.7	▲16.7
雇用人員	9.1	▲20.0	▲26.5	▲15.4	▲25.0	▲50.0	▲50.0	▲28.6	▲42.9	▲9.1	▲9.1
業況	▲26.7	▲11.4	▲2.9	▲8.3	8.3	0.0	▲25.0	▲42.9	▲28.	0.0	8.3

●DI 値（景況判断指数）について

DI 値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

採算・業況：(好転)-(悪化) 収入・売上：(増加)-(減少)

仕入価格：(上昇)-(下降) 雇用人員：(過剰)-(不足)

DI 値 数値の目安

特に好調	50 ≤ DI
好調（上昇・過剰）	25 ≤ DI < 50
まあまあ	0 ≤ DI < 25
不振（下降・不足）	▲25 ≤ DI < 0
きわめて不振	DI < ▲25

■設備投資は？

回答 35 社中

4~6 月			R4. 7~9 月 見込み
実施 した	土地	0	1
	建物	3	4
	機械	8	10
	車両	6	2
	IT機器	3	4
	その他	3	1
	計	23	22
実施していない・しない		20	19

■当面の問題点は？

※回答のその他はランク外扱い

第1位	材料費や仕入価格が上昇	29.9%
第2位	従業員や人材の確保が難しい	14.4%
第3位	人件費が増加している	11.3%
第3位	新型コロナの影響がある	11.3%
第5位	IT化への対応ができていない	5.2%

景況DIの推移

